

網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.99
2021.11

サーベルのような産卵管

産卵管は武器にあらず…

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

鋭い産卵管を持つ「キタササキリモドキ」

10月中旬に降った初雪は跡形もなくとけ、黄葉が主となった紅葉で森が一気に華やいた10月下旬、鋭い産卵管を持ったキタササキリモドキに出会いました。体が重いのか、それともコケの足場が不安定なのか見事な脚でも上手に飛ばずに左へピョン、右へピョンとその場から立ち去るべく奮闘していました。こちらがじっとしているとキタササキリモドキも落ち着きを取り戻し静かになりました。ヤブキリほどではありませんが、こちらもなかなか立派な産卵管が目立ち、ひと目でメスとわかります。産卵管は樹皮の隙間などに卵を産む時や地面に垂直に差して産卵する時、その後も器用に使いながら穴を埋める時にも使われるようです。物々しい形に見えますが産卵以外では、交尾の際にオスが仰向けになった状態で産卵管を噛んだり脚をかけたりにしていますが、オスの体を安定させるのにちょうどよいのでしょうか。長い触角に透明度のある若草色の体、メスだけが持つ鋭い産卵管…。小さな体には生き抜くためのパーツが過不足なく備わっているように見えますが、「このパーツはこれ位でちょうどいいな」と決まったのはいつのこと？そして、これからも緩やかに変化してゆくことはあるのでしょうか？

What is
"kitasasakirimodoki"?

「**フナ帯にすむササキリモドキ**」

ササキリモドキ科
体長：約 11～15mm
分布：東北～近畿北部

山手に生息し、樹上性で活発に歩き回り小さな昆虫などを捕食する。短翅タイプは西日本で細分化が進んでいるが、網張で確認しているのは本種の他に「ムツセモンササキリモドキ」、「コバナササキリモドキ」の3種。

(同定協力：伊達 功 氏)
(参考図書：「ファール昆虫記 第6巻上」
「図鑑 日本の鳴く虫」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

倒木を読む

第10話

ひょうがが十八番のホオノキ



(けはしくも刻むころの
峯々にいま咲きそむるマ
グノリアかも。)
〜中略〜
「サンタ、マグノリア、枝に
いっぱいひかるはなんぞ。」
向ふ側の子が答えまし
た。
「天に飛びたつ銀の鳩。」
「セント、マグノリア、枝に
いっぱいひかるはなんぞ。」
こちらの子があうたひま
ました。
「天からおりた天の鳩。」
宮沢賢治
『マグノリアの木』より

通勤で車を走らせている際に、前方に何か大きなものが落ちていた。もしかしたらタヌキがはねられてしまったのではないかとおろおろしながら近づくと、枯れて丸まったホオノキの葉だった。ほっとすると同時に、ちょっと化かされた気分になる。このようにホオノキの葉は日本の広葉樹の中でも各段に大きい。



網張温泉キャンプ場は2017-2018年にかけて改修工事が行われ、林間サイトの複数の広葉樹が伐採された。何十年とかけて大きく育った木が一瞬で切られてしまったのだが、それでも死なずに切り株から萌芽(ひこばえ)を伸ばす樹木も見られる。中でもその生長に感嘆させられるのはホオノキだ。



ホオノキは倒木等によってできた森林ギャップに進出する能力が高い。種子の休眠可能な年月は20年ともいわれ、地中でじっと発芽する時を待つ。運よくギャップが生じ発芽条件の光と温度が満たされると、ホオノキは他の植物に負けない生長を開始する。また、定着する事ができて余念がなく、萌芽を出して自分のクローンを作り、本体が枯れても永続できるように備える。大きなホオノキの葉は豊かな森の象徴であり、萌芽はその生命力の強さを物語っている。

参考図書：渡辺 一夫『イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか』



Q昔、ホオノキの材で版画を掘った記憶があるけど、なんでホオノキだったんだろう？

A. 固すぎず柔らかすぎず、加工しやすいからだと思います。刃があたっても傷まないという事で、まな板や刀の鞘としても利用されてきました。下駄の歯にもなって人の足にも優しいよ。栗石町では“南部木杓子”が知られていて、大正時代には年間50万1,200本も製造されていた記録が残されています。白神山地では、まっすぐな萌芽を切って杖に使うらしいよ。大きな葉も人と関りが深く、食べ物を包んだり載せたりする用途として重宝され、万葉集では“保宝葉”と表記されるなど親しまれていたようです。



制作：米澤 邦夫氏



アミハリ・バーズ
Vol. 42

キシバト

科名：ハト科
全長：約33cm
生態：留鳥または漂鳥
分布：全国



ヤマバトとも呼ばれ、デーデーポッポーと繰り返す雄の鳴き声がどこかユーモラスです。翼には茶色の幾何学模様並び、首元の青い羽毛がチャームポイント。ハトつながりですが、町中によくいるドバトは、家畜化されたカワラバトが再び野生化したものです。ハト類共通の特徴として、ヒナに“ピジョンミルク”を与える子育てが挙げられます。親鳥はほとんど植物食で、食べたものを“そのう”という器官にためて消化します。この器官の内壁がはがれたものが“ピジョンミルク”で、親鳥は雌雄問わずヒナに口移して給餌します。網張周辺では県道の電線に複数羽とまっているのをよくみかけましたが、本格的な積雪を前にだんだんと里へ下りて冬を迎えます。

自然観察会報告

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

- 国立公園で楽しむ親子の自然体験 - 9月25日「森で楽しむ 花あそび・草あそび」



今年も網張の森で遊びの材料を探し、どんぐりのはかまやエノコログサの葉を笛にしたり、トチの実の笛作りや落ち葉のたたき染めなど、自然のものをを使った遊びを楽しみました。ピーッと笛の音が出るとみんな笑顔に。「トチの実笛は実が柔らかいこの時期にしか作れません。自然のもので遊ぶと遊びを通して季節を感じるようになりますよ」と講師より。総勢 15 名参加

- 国立公園で楽しむ親子の自然体験 - 10月17日「おかわりしたくなる！ 炭火炊飯体験」



岩手山の初冠雪が記録されたこの日、岩手県独自の緊急事態宣言発令に伴い8/29より延期での開催となりました。講師より森の木が炭になるまでのお話を伺い、ナイフで栗を切ったりマッチをすったり、弓ぎり式発火具で火を起こしに挑戦したり・・・そして自分たちで七輪に炭火をおこし土鍋でご飯を炊きました。「お家のご飯より美味しい！」参加者感想より。総勢 14 名参加

10月9日「鞍掛山麓ハイキング & スケッチ」



気持ちのいい秋晴れの下、赤や黄色に色づきはじめて鞍掛山を堪能しました。「ゆっくりペースなので自然を楽しみながら歩けた」「今まで葉っぱはただの葉っぱでしかなかったが、スケッチでじっくりと見ることで、形や葉脈に注目できた。新しい世界を見た」参加者感想より。総勢 16 名参加

10月23日 ミニプラス 「キノコ観察会」



講師より「キノコは森のリサイクル屋さん」と森とキノコの関係の解説。特徴や見分け方を含め、参加者が見つけたキノコを1つ1つ教えていただきました。この日の観察は約 30 種類。総勢 15 名参加

11月7日「森のクラフト体験- 「クリスマス飾りを作ろう！」



ビジターセンター周辺で、材料となる木の実がなる木などを観察してから、森の恵みを使って個性豊かなクリスマス飾りを作りました。「思いがけず大作が作れて大満足」参加者感想より。ハーモニカの演奏によるクリスマスソングも。総勢 10 名参加

■ 中高生の網張ビジターセンターでの体験 ■

10月22日 フレンド滝沢 「秋の遠足 自然散策」

滝沢市の中学生：紅葉の森でたくさんのホコリタケを見つけました。



(写真提供：滝沢市教育委員会)

11月11日 東北高校2年生「修学旅行」

仙台市の高校生：展示見学や休憩コーナーで友人と語り合うなど思い思いに過ごしました。

● 紅葉の秋特別企画 ●

紅葉は葉っぱに何が起きているのか？ 紅葉クイズや樹木や葉っぱ探しのお手伝いをする散策シート、葉っぱの展示などを用意し、紅葉の秋を楽しんで頂きました。



インフォメーション

12月25日「クリスマスを新雪の網張の森で☆」 (スノーシューハイキング)

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合
定員：10名 ※要事前予約
参加料：大人500円 小学生以下300円
(スノーシューレンタル別途 100円)



1月16日「この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク」

9:30~14:30 たきざわ情報センター集合
定員：10名 ※定員に達しました
参加料：大人500円 小学生300円
(スノーシューレンタル別途 100円)

共催：滝沢市・滝沢市山岳協会・滝沢市観光協会

- 12月開催予定のビジターセンター企画展 -

「アミハリ・バース原画展」

期間：12月1日(水)~12月27日(月)

網張ビジターセンター発行の「ニュースレター」に毎号掲載しているアミハリ・バースの原画展です。



モモンガのつぶやき

網張の森に生息する生き物たちを観察するために、森にセンサーカメラを設置しているのですが、11月のある日、回収した電池ボックスを開けると、真っ白でふわふわしたものの中に動く姿がありました。クモです。どうやら電池ボックスの中で冬を越そうと準備していたようです。ゴメンね。ここでは越せないのよと、森の落ち葉の上にそっと返し、しばし観察させてもらっていると、急にモソモソと動きだし、あっという間に落ち葉の下に隠れてしまいました。あのクモさん、何処か良い所を見つけたかな？無事に冬を越せますように。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 1,094人 ◆ 10月 1,676人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 11.8℃ ◆ 10月 6.2℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館
年末年始休館 (12月29日~1月3日 ※12/28、1/4は火曜日休館)